

会 議 録

会 議 録			
名 称	都留市文化財審議会第 1 回会議	回数	第 1 回
日 時	令和 8 年 9 月 25 日（火）13 時 30 分～15 時 00 分		
場 所	ミュージアム都留研修室		
出 席 者	【委員】井上委員（副会長）、大澤委員、小川委員、北川委員、小林委員（会長）、保坂委員、堀内委員、森原委員、森屋委員 【事務局】教育長大竹、生涯学習課長程原、生涯学習課長補佐中村、文化振興担当リーダー知念、文化振興担当下田、文化振興担当小島、文化振興担当三浦		
欠 席 者	松田委員		
議事内容	次のとおり		
1. 開会（司会進行：生涯学習課長補佐中村） 2. 委嘱状の交付 3. 教育長あいさつ 4. 審議会会長あいさつ 5. 委員の紹介 6. 報告 7. 議事			
報告ア、イ 資料 1、資料 2 「都留市文化財審議会におけるこれまでの主な協議事項」、 「都留市文化財保存活用地域計画作成について」について事務局より説明。			
【委員からの質問・意見】 小林議長 これまでの協議事項および文化財保存活用地域計画に関する報告について協議を行う。まずは、天然記念物や古文書等の調査、ならびに文化財保存活用地域計画について各委員から意見を伺いたい。 井上委員は尾県郷土資料館に深く携わっており、豊富な見識をお持ちであるため、意見を伺いたい。 井上委員 尾県郷土資料館は明治 11 年に開校した尾県学校を前身とし、現在の教育資料館に至っている。住民の一人一人が資料館の歴史的価値を深く理解し、「自分たちの手で大事にしよう」という意識を持っていることが最大の特徴である。昭和に入って協力会が誕生し、現在は会員が 60 数名ほど所属している。大半は高齢者であるが、近年は若い世代も加入しており、体験教室や工作教室、あるいは小学生を招いた体験活動などを活発に行っている。こうした活動が継続・発展するためには、地域を牽引するリーダーの存在が不可欠である。例えば、いきなり谷村地区で協力会を立ち上げようとしても、組織として成り立たない可能性が高い。そのため、最初は行政が主導して引			

っ張り、軌道に乗った段階で手を離すという形をとるべきであり、立ち上げ期における行政の支援が極めて重要である。郷土資料館や尾県学校も同様の経過をたどって現在に至っている。

別の質問に移るが、第 1 回会議資料の 56 ページに禾生地域の未登録文化財等のリストが掲載されているが、これは該当地域のすべての文化財を網羅したものではないという認識でよいのか。

事務局 一部のみを掲載している。

井上委員 もう 1 点質問する。牛石遺跡の発掘調査を行う際、周辺の未登録文化財についても調査を実施したのか。以前、伊勢原市へ視察に行った際、同市では発掘調査を行う際に対象地の周辺にある未登録文化財も含めて一切の調査を実施し、何万点にも及ぶ記録を確実に残していると伺った。都留市ではどのような対応を行っているか。

事務局 牛石遺跡の発掘調査期間中は、時間的およびマンパワー的な制約から、周辺の現況調査まで実施することは困難であった。しかし、今回の協働のまちづくり推進会の協力において実施している悉皆調査において、厚原地域などを含めた石造物や神社の拾い出しを行っている。今後は、未指定文化財についても悉皆調査を通じて順次拾い出しを進めていきたいと考えている。

小林議長 北川委員から意見を伺いたい。

北川委員 本日のお話を伺う中で強く感じるのは、文化財という建物を継続し、維持していく上での「人」の重要性である。地域の特性や建物の性格の違いはあれど、いかに人を惹きつける活動を展開し、維持のための担い手を確保するかという点が本質的な課題である。財政的な支援を含めて地域全体での文化財の掘り起こしや保存が重要と思う。

小林議長 保存活用地域計画の協議会でも最大の課題として挙がっているのが、まさにこの「担い手不足」と人口減少の問題である。立派な施設や文化財を維持・活用するためには担い手が不可欠である。また、都留市では八朔祭り大名行列や 10 月のお茶壺道中など、様々な伝統行事が都留文科大学の学生による支援なしには成り立たないという現実がある。学生に負担をかけている面もあるが、彼らの協力によって本市の祭りが辛うじて存続できているのが現状である。

そこで、学生と深く接しておられる小川委員から、地域と大学の関わりや学生の参加状況について、何かアドバイスがあればお願いしたい。

小川委員 本学の学生の約 9 割が県外出身者であり、その多くは地元に戻って教員になるという明確な志望動機や、地域に開かれた社会教育活動に携わりたいという高い意欲を持っている。彼らが都留市での取り組みと地元の状況を比較しながら学べる環境づくりは、教育的にも非常に有意義であると考えている。

直近の事例としては、今年度に都留文科大と谷村第一小学校が連携し、11 月末に公開授業を実施することになっている。総合学習や社会科の共同研究として「郡内織」を題材に掲げた小学校の教員から相談を受け、ミュージアム都留で実物資料を見学さ

せてもらうなどして織物についての学習を進めている。

また、商家資料館の改修工事に伴うこの5年間、地域産業や今に生きる町並み・景観といった生きた教材に触れる場が一時的に制限されることへの影響を懸念している。工事完了後の活用場面において、小学校教育の学習の場としてどのように連携していくのか、具体的な検討が進められているか伺いたい。

なお、大学教員も若返り図る中で、改めて地域住民と学生のニーズをつなぎ直していくことが必要だと感じている。ただし、教員志望者の減少という深刻な人口減少のトレンドが明確に表れている中、学生数が減少しても大学と地域の魅力を高めていくことが極めて重要な課題であると考えている。

事務局 商家資料館の今後の活用については、現在議会等でも議論されており、方針が明確になっていく見込みである。文化財審議会の中でも博物館と学校の連携や、小中学校における生きた教材としての活用を進めるべきだとの議論をいただいております、我々としてもぜひ実現させたいと考えている。

商家資料館の最大の魅力は絹織物産業の歴史にあり、公開している織物資料等は、工事前に資料をミュージアム都留へ一時移動することを想定しているため、そちらで資料を見ていただく形がとれればと考えている。方向性が固まり次第、委員の皆様にご案内する。

小林議長 次に、森屋委員から意見を伺いたい。

森屋委員 地域計画の策定プロセスにおいて、どうしても調査対象が谷村の市街地中心になりがちであるという課題がある。資料の残存状況の偏りから致し方ない部分もあるが、それ以外の地域の歴史文化をどのように掘り起こし、計画に反映させていくかが重要である。また、博物館の常設展も谷村中心の展示構成となっているため、地域計画の内容と博物館の展示をしっかりとリンクさせていく必要があると考えている。

小林議長 森屋委員には地域計画策定協議会でも様々なご意見をいただいております、計画に反映させている。次に、森原委員から意見を伺いたい。

森原委員 資料1ページの天然記念物に関するアンケートでは51件の回答があったとのことだが、調査対象の総数はいくつになるのか。

事務局 文化財全体を含めた総数は94点であり、所有者が明確なものや市が管理しているものなどが含まれている。

森原委員 アンケートに回答し、自己の所有する文化財を認識している所有者はまだ良い。最大の課題は、代替わり等によって文化財の所在や価値が把握されなくなり、関心が薄れることで貴重な文化財が失われるケースが近年増加している点である。

したがって、文化財の重要性を訴えるだけでなく、その大前提として「文化財の存在を周知すること」が不可欠である。地域住民への説明や学校教育を通じた周知など、行政から積極的に働きかけを行わなければ、文化財は容易に忘れ去られてしまう。今後も継続してこの取り組みに注力していただきたい。

小林議長 次に、堀内委員から意見を伺いたい。

堀内委員 市史編さんから約 30 年が経過し、先ほど森原委員が指摘した代替わりの問題が現実化している。市史編さん当時に所蔵者から聞き取りを行い、古文書等を封筒に入れて調査した記録が現在どうなっているかという点が懸念される。

寺院を除けば、個人宅に所蔵されている古文書の目録作成などはあまり進んでおらず、かつての調査では膨大な数の資料が確認されていたはずである。今後はそうした個人所蔵資料の追跡調査も必要になってくるのではないかと。資料や情報を集約する博物館の果たす役割は大きいと感じている。

小林議長 次に、大澤委員から意見を伺いたい。

大澤委員 市内の天然記念物等に関するグラフを見ると、管理状況に問題があるものが 8 件確認されており、その多くは樹木の天然記念物ではないかと推測される。かつては樹木の天然記念物は放置気味であったが、2 年前に視察して以降、枯死したヤブツバキの指定解除をはじめ、落枝の危険があった八王子神社のイチヨウの剪定、今宮神社のケヤキや真福寺の大力ヤに対する適切な保全措置が着実に進められていると評価している。

一方で、玉川の阿夫利神社の彼岸桜や桂林寺の桜など、深刻に傷んでいる天然記念物も残されているため、地域計画策定で多忙とは思いますが、今後も着実な保全事業を進めていただきたい。

事務局 阿夫利神社の桜や桂林寺の桜についても現地を確認しており、対策費用面での課題等を認識している。計画策定と並行しながら、可能な限り所有者へアプローチし、伴走型の支援・事業展開を図っていく。

小林議長 次に、保坂委員から埋蔵文化財の観点および地域計画策定の観点から意見を伺いたい。

保坂委員 牛石遺跡の発掘調査に関して、発掘調査指導委員会の立ち上げ等に関わった経験から、開発事業に伴う埋蔵文化財の調査では、事業者との調整のもとで記録保存の方向性を整理し報告することが極めて重要である。都留市のように考古学の専門家を含む検討会を設置し、専門的な意見を踏まえて調査を進める手法は非常に望ましい。今年の 11 月まで続く調査成果をしっかりと検討委員会で整理し、事業者に対して文化財保護のあり方を示すべきである。

また、昨年度まで地域計画の担当として、文化庁及び地域計画の策定を進める県内市町村との協議に立ち会ってきた経験から言えば、国としても地域計画の策定を強く推進しており、ハンドブックが活用されている。計画策定において何よりも重要なのは「歴史文化の把握」であり、歴史的環境や地形的環境というスタートラインを十分に踏まえる必要がある。

今後の意見聴取の場においては、計画の第 1 章から第 3 章までの基礎部分をしっかりと説明した上で、それに基づく課題を提示すれば、委員としても具体的な意見を出し

やすくなる。地域計画の本質は「地域が抱える課題を可視化し、その解決に向けた方向性を明確に示すこと」にある。30 年後の将来像を見据えた中・長期的なマスタープランとして位置付けるとともに、その実現に向けた 10 年間のアクションプランを前期・中期・後期に区分し、「いつ、何を実施するのか」を具体化することで、着実な課題解決を図ることが重要である。

小林議長 地域活用計画協議会の中でも適切なアドバイスを引き続きお願いしたい。他に意見のある委員はいないか。

北川委員 悉皆調査について、社寺は対象となっているが、一般の民家等はどう扱われるのか気になっている。

山梨県内では、昭和 30 年代の文化財調査に始まり、昭和 50 年代の社寺調査、2010～2012 年の近代和風建築に係る県の調査など、積み重ねてきた実績がある。建造物は他の美術品と違って突如として所在不明になることは少ないが、知らないうちに解体・消失してしまうケースがある。未指定の文化財はいつの間にか失われる危険性が高い。

町村の町史編さんなどの機会をとらえて、建造物も含めた地域の情報をまとめることが不可欠であり、情報がなければ次に何をすべきかも判断できない。長期計画の中にこうした基礎調査と情報発信の視点を盛り込んでいくべきである。

森原委員 関連して、都留文科大学の学生の活用について意見を述べたい。全国的に考古学等の調査において学生のフィールドが減少し、調査に参画する機会が激減している。

その点、地元の都留文科大学と良好な関係にある都留市は、建造物の調査、天然記念物の悉皆調査、あるいは過去の指定資料の再調査などにおいて学生の協力を得られるという点で、他の自治体にはない圧倒的な強みを持っている。学生にとっても貴重な学習・訓練の場となるため、大学との連携を積極的に取り入れるべきである。

事務局 建築物の悉皆調査については、市史編纂時にまとめた「民家・民俗」の調査結果をベースに、委託事業者を交えて進める予定である。

学生との連携についても、マスタープランの策定を大前提としつつ、事業計画の中に大学や学生との連携をしっかりと位置づけ、調査を継続していけるよう検討する。

小林議長 かつては考古学の遺跡調査に学生が参加していた記憶があるが、現在の状況はどうか。

事務局 現在はそうした調査サークルは解散している。

小林議長 それは非常に残念である。ほかに意見がなければ、本日の報告事項である「文化財審議会の協議事項」および「地域計画策定」の 2 点についての報告を終結とする。

議事ア **資料 3** 「旭岳麟資料群の指定について」、について事務局より説明。

【委員からの質問・意見】

小林議長 旭岳麟の調査活動について、これまで和歌山県立博物館や松田委員を通じて進められてきた旨の説明があった。本日付で教育委員会から当審議会に対し、文化財指定に関する諮問がなされている。これについての意見を伺いたい。

北川委員 「2年に1つの資料を指定する」という方針について確認したい。ノルマ的に指定をしなければならないと誤解されないよう、あくまで意気込みとしての表現に留めることが好ましい。

事務局 我々としても、これまで手が届かなかった分野に裾野を広げていきたいという意気込みから「2年に1度」という表現を用いているが、日常業務や調査研究の時間を考慮し、あくまで方針としての意気込みと捉えていただきたい。

小林議長 当該内容で旭岳麟の作品等の指定に向けて作業を進めることとする。事務局において適切に対応されたい。

議事イ **その他** 「牛石遺跡発掘調査」について事務局より説明。

【委員からの質問・意見】

小林議長 雨天で中止となった説明会に代わる今後の予定はあるか。

事務局 工事の工期の関係上、実地調査を10月中旬までとしているため、大規模な説明会を実施する予定はない。

8 その他

事務局よりミュージアム都留企画展についてご案内。

9 閉会